

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102063		
法人名	医療法人静隆会		
事業所名	グループホーム大平台の家(1号館)		
所在地	静岡県浜松市西区大平台3丁目36番10号		
自己評価作成日	令和1年8月6日	評価結果市町村受理日	令和元年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=227102063-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=227102063-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

体力維持できるよう、毎日2回の筋力体操を行っている。便意・尿意がなくてもトイレ誘導を行いオムツ使用にしない。車椅子にならないように出来るだけ助歩歩行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の一つである「家庭的な環境の中、安心して生活できるように」を推進していることは、利用者のアイコンタクトの伴う笑顔の「コンニチワ」の挨拶に十二分に現れています。職員が間に入らず、利用者同士で会話が盛り上がっていて、一つの大家族のように賑やかな事業所です。「此处でずっと暮らすんだから、できるだけ本人の自由に〜」と管理者が方針を共有させていて、「(食卓を)拭いてもらえますか」「こちらお願いします」と職員が都度声をかけ、黒子に徹して利用者の主体性を引きだし、本人の有用感を高めていて、開設から15年を経た重みが伝わる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰でも目につく玄関に掲げている。 職員は理念の実践に努めている。	地域からはお祭りにも声がかかり、またテント付の席が用意された運動会には弁当持参で高齢者向けの演目に参加しています。防災訓練ではスモーク体験もしていて、「地域とのふれあいを大切に」の理念が地域活動の中に溶け込んでいることが伝わります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入している、回覧版も回って来ている。地域の行事等もできるだけ参加している。	中学生の職業体験を毎年受入れ、生徒から手紙も届いており、利用者の発語や笑顔が増えることとして、事業所では大いに歓迎しています。また恒例となった駐車場でのソングや体操では近所の皆さんの迷惑にも配慮して、本年から「日曜日はやめよう」ということに決めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会長・民生委員・包括支援センターの出席いただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では施設の運営状況、また入居者の状況など報告して意見があれば参考にしている。	「公園の駐車場は～」 「本人の家の夏蜜柑が～」と、身近な話材が挙がっていて、開設から15年の積み重ねが地域とのより良い関係に実ることが議事録に連なるメンバーの提案や助言からも見え、運営推進会議は2ヶ月に1回の定例開催が叶っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に出席いただいている。また介護保険の更新手続きを代行にて行っている。	運営推進会議に毎回参加くださる地域包括支援センターからは研修会やイベントの案内を常にもらえており、新規入居者の紹介もあります。また支え合いポイントの登録事業所にもなっていて、ダンスや踊りなどのボランティアメニューが増え続けています。	下肢筋力を鍛える、浜松市推奨の体操の導入ができれば、なお良いと思います。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束等の適正かに向けて研修を行い、職員全員で取り組んでいる。	昨年4月の法改正に基づき、指針とマニュアルが整備され、身体的拘束適正化委員会の設置とともに3ヶ月に1回の委員会開催、年2回の研修会がおこなわれています。新入社員研修も法人本部のプログラムに副っていて、法令に準じた取り組みがみられます。	研修の実録などが法人本部に廻ってしまっているようですので、複写を事業所内に保管しておくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止について研修を行い、職員全員で取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名 司法書士に依頼されている利用者があるが、今までに2軒目でそれについて家族からの相談はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・改定時には家族に十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族からの意見や要望を聞くようにしている。また運営推進会議もある。	週1回との家族もいて面会も少なくなく、普段から顔を合せた会話があるほか、「大平台の家」の代名詞ともなっている「ひなたぼっこ」をそのまま命名した通信を3ヶ月に1回発行、活動の様子を写真を添えて家族に届け、情報共有と理解を図っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第3火曜日に定例会を行い、職員の意見を聞いている。また毎日13時30分から30分間カンファレンスを行ない話し合っている。	第三火曜日を定例会と定め、当日休日の職員が自発的に出席していることから仕事への真摯さが窺えます。職員のチームワークも良好で、直接管理者に進言することもあり、休憩のとり方を分散させるといった働き方改善につながった例もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の持っている資格にあった手当や業績に合わせ達成手当を付け、やりがいのあるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は定期的に行っている。また外での研修は個人的に自由に受けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内でのアルバイトは許可しているため、希望者は他施設での体験をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時、家族から本人のお困り事や不安な事などを聞き、ケアプランにとり入れて安心に過ごせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時、家族からのお困り事や要望などを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、本人と家族が何が必要なのかを見極め、支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を送っている家族と心がけて接することを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には気軽に来設できる雰囲気を中心掛けている。来設時にはゆっくりお話しできるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望をご家族に伝え、できるだけ希望をかなえられるようにしている。季節ごとにお墓参りなども行っている。	「珈琲が好き」「この銘柄のジュースがいい」と続けている人、家族が墓参りや外食に連れだしてくれる人など、その人の好みや習慣を続けることができるよう家族の協力の下、努めています。また面会は9時～ですが、大きな病院の受診介助で時間前に来所する家族もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・お茶・ラジオ体操は毎日一緒にしている。また毎日合同でレクリエーションを行っている。毎月合同で行事を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、相談があれば受け入れる気持ちがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に会話をするように努めている。また日常の仲間での会話でも知ることができる。	職員が間に入らずとも、利用者同士で会話が盛り上がっていて、一つの大家族のように賑やかな事業所です。利用者の会話は日常的に耳に入ってきており、職員にとって新しい発見があれば「経過記録」に残しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族からある程度聞いている。また本人の会話の中でも知れ得ることがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に自由に過ごして頂くようにしているが、過ごし方が分からない方には、出来る事を職員が選り提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を行い、皆さんから意見を聞きケアプランを作成している。	「介護記録」の中に「個別サービス内容」という欄を設け、2表のサービス内容を転写することで実践を確かに行っています。転勤や出産、親の介護以外の理由で退職する人がほとんどないことから、介護計画に係る知識、当人のアセスメントの把握も安心できる態勢にあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた事などを介護記録・経過記録に記入している。またカンファレンスなどで職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況が日々変化する可能性があるため、その時々で柔軟な支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会・夏祭りなどに参加したり、朝の散歩などで通りがけの方が手を振ってくれたりする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は施設の協力医は職員が同行して、定期薬を処方されている。また家族の希望により他の病院へご家族と行っている方もいる。	17名が協力医に変更し、月1回職員の介助で定期通院による医療を受けています。従来のかかりつけ医を続ける1名は家族の付き添いで、どちらも「経過記録」に記載し、週2回訪れる看護師も同じ書面に助言や気づきを残して連携に結ばれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週2回来設されている。利用者が変化があった場合は説明している。また急に悪くなった場合には、24時間体制で電話にて対応して頂いている。看護師の支持にしたがっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は入院先へ情報提供書・アセスメントシートを提供している。病院の相談員の所にも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しグループホームの生活が難しくなった場合はご家族と話し合い、本人の楽に居られる施設に移っていただけるように話し合う。	「看取りはおこなわない事業所である」ことを家族には契約時に説明し、合意を得ています。口徑摂取が難しい、入浴が2人介助でも困難といった重度化の兆候がみられると、家族と話し合いの場をもつように段取るとともに、法人内を含み移設先を紹介しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は事故発生に備えて、研修を行っている。またマニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回行っている。1回は夜間を想定して行う。地域の防災訓練にも参加している。	夜間想定も組み入れて年2回の法定訓練をおこない、避難誘導・通報・消火のほか、毎回非常階段を使った避難は定番メニューとして実施しています。備蓄は2、3日分あり、消費期限が近づくと皆で試食を兼ね実食しています。	職員は訓練メニューを一巡しているようですので、今後は習熟度(できる、不安が残る、できない等)を記録して、全員が「できる」になることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人それぞれに、性格や個性が違うため、プライドを傷つけないように、その人に合った対応をしている。	居室扉のノックやトイレでの羞恥心への配慮は無論のこと、部屋に付いた洗面所の掃除では汚れ物やリスク管理への意図はあるものの、利用者本人の気持ちを考慮して「ドアをオープンに」ということを管理者からも重ねて指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をしたいかわからない方には、無理じいしないように、職員が出来る事を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に自由に過ごして頂くようにしているが、過ごし方がわからない方には、出来る事を職員が選び提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容師が毎月第4金曜日に来設、希望者は行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る事を一緒に行っている。テーブル拭き・食器拭きなど。	普段は「タッパーでの完成品」「レトルト」等で業者から届く献立を提供しています。柏餅、ぼた餅などの行事食をはじめ、家族の畑で収穫したさつま芋を活用したり、フルーツゼリーやホットプレートを使ったどら焼き等の調理レクに盛り上がる日もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリー計算、栄養バランスを考えている。水分については毎食汁物を付けている。また 個々により食べやすい大きさにしている。食べられない時は介助をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員に歯磨きの声掛けをしている。自分では難しい方については職員が口腔ケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意がなくても、立位ができればトイレ誘導を行っている。個々の排泄パターンは排尿・排便チェック表を付け声掛けしている。	夜間はポータブルトイレを使用する人が2名いますが、日中は全員が「トイレで」を慣行し、6名が布パンツで過ごすことが出来ています。コップはなるべく大きなものにして水分摂取に気遣って便秘対策にも余念がありませんが、最後は医師の指導を得て薬に頼っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用にて対応している。また水分補給・運動などで身体を動かすよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は職員の勤務体制上、自由な時間にはできませんが、毎日14時から行っている。入浴剤にお茶ガラを入れている。	イベントや体調不良で変えることはあっても、基本隔日入浴を旨とし、「毎日入りたい」にも応えることができる体制を整えています。「昼間からお風呂入れて幸せだあ」「主人に怒られちゃうよ」と弾んだ声で話す人、お風呂で歌をうたう人、それぞれ入浴タイムを楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後などに居室で休息するのは自由に行っている。気持ちよく眠れるように、天気の良い日は布団干しを行い、シーツ類の洗濯は月に2~3回行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の管理を行っている。間違いのないように朝・昼・夕とセットし、服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自分の出来る事はご自分で行っていただく、また手伝いが好きな方には出来るだけやっていただく、毎月行事を行い楽しみを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日屋外で全員でレクレーションを行っている。四季を感じられるように公園にお弁当持ちで出かける。ご家族が外食やお墓参りなどに誘ってくれている。	公園での桜の花見で雉との再会を歓ぶ日もあり、神久呂神社への初詣、秋の紅葉狩り、地域の運動会を恒例の外出行事として、日常的に外気浴や散歩が慣行されています。散歩を「毎日」希望する利用者には、真夏や真冬でも職員が付添って意向に応じています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	皆さん物忘れがあり、しまい忘れてのトラブルがないように所持している方は少ない、持っていないと落ち着かない方は、影響の及ばない程度の所持金を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をする事ができる。 家族からお届け物があった時は、お礼の電話を入れている。手紙がくることはないが、年賀状は来る人はいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはテレビ・共同作成した貼り絵などが飾っており、窓からは公園の緑が見え季節感を感じることができる。7	2階ユニット(2号館)からは公園が一望でき、緑に目が和むとともに遊具に戯れる幼児の姿に癒されます。1階ユニット(1号館)ではちぎり絵のクラフト活動が盛んなことが一目でわかり、手の込んだ作品に圧倒されます。ベテランの女性職員が多いためか掃除が行き届き、総じて清潔です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人個人の過ごし方があり、自由になっている。自分では分からない方には、職員がその人に合った物を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人は迷わず使用できるように使っていた物をと、お話ししています。ご家族が思い出の写真や花などを、居室に飾っている。	カーテン付クローゼットに大抵のものは収納できるため、どの居室もスッキリ整理されています。洗面所には歯磨きセットが並び生活にリズムがあることが判り、またテレビの持ち込みには「独りで好きなチャンネルを選ぶのかな？」と、暮らしぶりが垣間見えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な方でも、歩けるようにすべての所に手すりがあります。トイレが迷わないようドアに大きく「トイレ」と書いてある。建物内はつまづかないようにバリアフリーになっている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2277102063		
法人名	医療法人静隆会		
事業所名	グループホーム大平台の家(2号館)		
所在地	静岡県浜松市西区大平台3丁目36番10号		
自己評価作成日	20019年8月6日	評価結果市町村受理日	令和元年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=227102063-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=227102063-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年8月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

体力維持できるよう、毎日2回の筋力体操を行っている。便意・尿意がなくてもトイレ誘導を行いオムツ使用にしない。車椅子にならないように出来るだけ介助歩行している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

理念の一つである「家庭的な環境の中、安心して生活できるように」を推進していることは、利用者のアイコンタクトの伴う笑顔の「コンニチワ」の挨拶に十二分に現れています。職員が間に入らず、利用者同士で会話が盛り上がっていて、一つの大家族のように賑やかな事業所です。「此处でずっと暮らすんだから、できるだけ本人の自由に〜」と管理者が方針を共有させていて、「(食卓を)拭いてもらえますか」「こちらお願いします」と職員が都度声をかけ、黒子に徹して利用者の主体性を引きだし、本人の有用感を高めていて、開設から15年を経た重みが伝わる事業所です。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰でも目につく玄関に掲げている。 職員は理念の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している、回覧版も回って来ている。地域の行事等もできるだけ参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会長・民生委員・包括支援センターの出席いただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では施設の運営状況、また入居者の状況など報告して意見があれば参考にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議に出席いただいている。また介護保険の更新手続きを代行にて行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束等の適正かに向けて研修を行い、職員全員で取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止について研修を行い、職員全員で取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名 司法書士に依頼されている利用者がいるが、今までに2軒目でそれについて家族からの相談はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・改定時には家族に十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族からの意見や要望を聞くようにしている。また運営推進会議もある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第3火曜日に定例会を行い、職員の意見を聞いている。また毎日13時30分から30分間カンファレンスを行ない話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の持っている資格にあった手当や業績に合わせ達成手当を付け、やりがいのあるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は定期的に行っている。また外での研修は個人的に自由に受けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内でのアルバイトは許可しているため、希望者は他施設での体験をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時、家族から本人のお困り事や不安な事などを聞き、ケアプランにとり入れて安心に過ごせるようにしている。。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時、家族からのお困り事や要望などを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、本人と家族が何が必要なのかを見極め、支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を送っている家族と心がけて接することを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には気軽に来設できる雰囲気を中心掛けている。来設時にはゆっくりお話しできるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望をご家族に伝え、できるだけ希望をかなえられるようにしている。季節ごとにお墓参りなども行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・お茶・ラジオ体操は毎日一緒にしている。また毎日合同でレクレーションを行っている。毎月合同で行事を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、相談があれば受け入れる気持ちがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に会話をするように努めている。また日常の仲間での会話でも知ることができる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族からある程度聞いている。また本人の会話の中でも知れ得ることがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に自由に過ごして頂くようにしているが、過ごし方が分からない方には、出来る事を職員が選り提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を行い、皆さんから意見を聞きケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた事などを介護記録・経過記録に記入している。またカンファレンスなどで職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況が日々変化することがあるため、その時々で柔軟な支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会・夏祭りなどに参加したり、朝の散歩などで通りがけの方が手を振ってくれたりする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は施設の協力医は職員が同行して、定期薬を処方されている。また家族の希望により他の病院へご家族と行っている方もいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週2回来設されている。利用者が変化があった場合は説明している。また急に悪くなった場合には、24時間体制で電話にて対応して頂いている。看護師の支持にしたがっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は入院先へ情報提供書・アセスメントシートを提供している。病院の相談員の所にも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しグループホームの生活が難しくなった場合はご家族と話し合い、本人の楽に居られる施設に移っていただけるように話し合う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は事故発生に備えて、研修を行っている。またマニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回行っている。1回は夜間を想定して行う。地域の防災訓練にも参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人それぞれに、性格や個性が違うため、プライドを傷つけないように、その人に合った対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をしたいかわからない方には、無理じいしないように、職員が出来る事を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に自由に過ごして頂くようにしているが、過ごし方がわからない方には、出来る事を職員が選び提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容師が毎月第4金曜日に来設、希望者は行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る事を一緒に行っている。テーブル拭き・食器拭きなど。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリー計算、栄養バランスを考えている。水分については毎食汁物を付けている。また 個々により食べやすい大きさにしている。食べられない時は介助をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員に歯磨きの声掛けをしている。自分では難しい方については職員が口腔ケアを行っている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意がなくても、立位ができればトイレ誘導を行っている。個々の排泄パターンは排尿・排便チェック表を付け声掛けしているy。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用にて対応している。また水分補給・運動などで身体を動かすよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は職員の勤務体制上、自由な時間にはできませんが、毎日14時から行っている。 入浴剤にお茶ガラを入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後などに居室で休息するのは自由に行っている。気持ちよく眠れるように、天気の良い日は布団干しを行い、シーツ類の洗濯は月に2~3回行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の管理を行っている。間違いのないように朝・昼・夕とセットし、服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自分の出来る事はご自分で行っていただく、また手伝いが好きな方には出来るだけやっていただく、毎月行事を行い楽しみを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日屋外で全員でレクレーションを行っている。四季を感じられるように公園にお弁当持ちで出かける。ご家族が外食やお墓参りに誘ってくれている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	皆さん物忘れがあり、しまい忘れてのトラブルがないように所持している方は少ない、持っていないと落ち着かない方は、影響の及ばない程度の所持金を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をする事ができる。手紙がくることはないが、年賀状は来る人はいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはテレビ・共同作成した貼り絵などが飾っており、窓からは公園の緑が見え季節感を感じることができる。7		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人個人の過ごしかたがあり、自由にしている。自分では分からない方には、職員がその人に合った物を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人は迷わず使用できるように使っていた物をと、お話ししています。ご家族が思い出の写真や花などを、居室に飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な方でも、歩けるようにすべての所に手すりがあります。トイレが迷わないようドアに大きく「トイレ」と書いてある。建物内はつまづかないようにバリアフリーになっている。		